

PRAEVIDENTIA DAILY (5月26日)

昨日までの世界：デイスインフレ懸念後退でカナダドル高

先週金曜は、米長期債利回りが低下したものの、ドルが対主要通貨で総じて強含みで推移し、ドル/円相場はNY時間引けにかけて一時102.01円と102円を回復した。米新築住宅販売は43.3万件と前月および市場予想を上回る良好な結果だったが市場へのインパクトは殆どなく、むしろ米長期債利回りは週末のウクライナ大統領選や欧州議会選を控えたリスク回避の動きから低下したようだが、ドル/円は21日の日銀決定会合で直近安値下抜けに失敗した後の買戻し基調が、英米の連休を控えて続いたようだ。

ユーロは、独Ifo景況感指数が110.4と市場予想以上に悪化し、特にこれまで改善が続いていた内訳項目の現況指数も悪化したことから、ユーロが続落し対ドルで一時1.3616ドルへ下落した。他方、カナダドルは、カナダ4月CPIはいずれも市場予想通りだったが、総合CPI前年比が前月の+1.5%から一気に+2.0%へ上昇し、デイスインフレ領域からカナダ中銀のインフレ目標の中心を回復したことからインパクトが大きく、発表後に続伸した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.2	+0.00	-0.00	-0.00	-0.01	-0.02	-0.01	+0.4	+0.9	+0.6	+0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.2	-0.00	-0.00	-0.00	+0.02	+0.01	-0.02	+0.5	+0.4	+0.2	-0.08
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	-0.02	-0.02	-0.00	-0.00	-0.02	-0.02	-0.1	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.1	+0.01	+0.01	-0.00	+0.05	+0.03	-0.02	+0.4	+0.7	+0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	+0.00	+0.00	-0.00	+0.04	+0.02	-0.02	+0.4	+0.7	+0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.3	+0.00	-0.00	-0.00	+0.00	-0.02	-0.02	+0.4	+0.6	+0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.5	-0.01	-0.02	-0.00	+0.00	+0.01	+0.01	+1.2	+2.6	+2.3	+0.7
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.5	-0.01	-0.03	-0.02	+0.07	+0.08	+0.01	+1.2	+1.2	+0.7	-0.02
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.4	+0.01	-0.01	-0.02	+0.06	+0.07	+0.01	+0.9	+1.2	+0.4	+0.8
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.9	+0.03	+0.01	-0.02	+0.06	+0.07	+0.01	+0.9	+1.2	+0.4	+0.8
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.03	+0.02	-0.02	+0.06	+0.07	+0.01	-0.6	+1.2		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.0	-0.03	-0.02	+0.01	-0.03	+0.01	+0.04	+0.9	+1.2	+2.3	+0.8

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

## きょうの高慢な偏見：ウクライナ大統領選と欧州議会選への反応はあるか

## きょうの注目通貨：USD/JPY↑、EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ4 月貿易収支・NZ ドル	7:45	+9.20 億	+6.34 億	
日銀 4 月 30 日分議事要旨	8:50			
岩田日銀副総裁発言	16:00			ハト派
英米市場休場				

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は英米休場もあって材料が殆どない中、週末のウクライナ大統領選および欧州議会選の結果に対する反応があるかもしれない。ウクライナ大統領選については、最も影響を受け易かったロシアルーブルが上昇基調にある中、市場の関心は薄れているが、①東部では妨害が多く投票率が 1 割程度に満たないようだが、一応全国で大統領選が行われたこと、②投票率については全体で 4 割程度と前回は上回る可能性があり、選ばれた候補の「正統性」は若干高まること、などはポジティブで、米長期債利回り上昇とドル/円続伸に繋がる可能性がある。他方、③現時点で過半数を確保したとみられるポロシェンコ氏は EU 寄りの発言と親ロシア勢力の武力制圧の必要性を繰り返していること、④EU が経済制裁を強化する可能性があること、などはネガティブ要因で、米長期債利回り低下とドル/円の下押しリスクに繋がる。いずれにせよ、ドル/円は 2 月以降の 102 円を中心としたレンジ推移に変わりはない。

欧州議会選は、全 EU 規模で支援を決定する必要があった欧州債務危機が後退している中で、一般市民の EU やユーロに対する支持度合いは現時点では然程ユーロに対して影響を持たず、材料としてはあまり重要性は高くない。但し、自国の EU 離脱や他の加盟国への財政支援に反対する EU 懐疑派・反対派の政党がドイツ (AfD)、フランス (FN)、英国 (Ukip)、イタリア (Five Star Movement)、オランダ (自由党)、ギリシャ (SYRIZA) などで台頭しており、議席数が増加する見込みとなっている点は、将来的に債務危機や銀行危機が起きた場合の EU としての対応を困難にする前兆となるため、若干のユーロ売り材料だ。この点、既にオランダ自由党の Wilders 党首は選挙の手応えについて失望を表明しており、これが全 EU でもみられ予想ほど EU 懐疑・反対派の議席数が増えない場合にはユーロ支持要因である一方、ギリシャでは SYRIZA が第一党となった模様で、ユーロ下押し要因もある。但し足許ではどちらかというと、ユーロがようやく ECB 緩和期待もあって下落基調が形成されてきていることから、悪材料への反応の方が大きいかもしれない。

## ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者 (投資助言・代理業) 関東財務局長 (金商) 第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641